



野焼きによる草地の保管理

むらやま

村山牧野環境保全組合（熊本県高森町）

たかもりまち

（現・高森町多面的機能支払活動組織広域協議会）

- 本地区は、昭和40年代に農地開発公団により造成された草地地帯。
 - 本地域では、従来より、草地を維持するための野焼きが行われているが、近年、高齢化や兼業化による人手不足の影響で、野焼きの実施が困難となってきている状況。
 - このため、本地区では、野焼き支援を行っているNPO法人や自治会を構成員として活動組織を立ち上げ、継続的に草地を保管理する体制を構築。
- ※「野焼き」に対する支援は、基本方針において県が活動項目に追加することにより実施可能となっている。

【地区概要】※広域活動組織設立以前の概要

- ・取組面積 170ha（草地 170ha）
- ・資源量 農道 2.0km
- ・主な構成員
農業者、非農家、農業協同組合、
畜産協同組合、自治会、
阿蘇グリーンストック(NPO)
- ・交付金 約1百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

地域の状況



- 昭和40年代に農地開発公団により造成された草地地帯。
- 地元農家が畜産共同組合を結成し、肉牛の放牧を実施。
- 地域住民の協力を得ながら野焼きを実施していたが、高齢化や兼業化により実施が困難となってきている状況。

主な取組内容



輪地切り

- これまで野焼きを草地の保管理を行ってきた畜産共同組合のほか、野焼き支援を行っているNPO法人「阿蘇グリーンストック」や自治会を構成員として活動組織を立ち上げ。
- 輪地切り(野焼き時の防火帯の作成)、野焼きを年2回ずつ実施。
- 活動を通じて、活動組織の構成員である畜産農家、自治会、NPO法人、市民ボランティア間の交流が促進され、結果として作業参加者の意欲が高まった。



野焼き